

発掘は「地道な作業」

弥生時代の集落跡が眠る鳥取市青谷町の国史跡青谷上寺地遺跡で10日、青谷高の3年生14人が発掘調査を体験した。鳥取県職員から説明を受けて土器の破片を掘り起こし、郷土史や当時の暮らしのひもとく考古学への理解を深めた。

(松本妙子)

青谷上寺地遺跡で調査体験

青谷高の新科目 「弥生文化探究」

古墳時代のもつみられる土器や炭を掘り当てる高校生
10日、鳥取市青谷町青谷の国史跡青谷上寺地遺跡

同校では遺跡の発掘体験を2018年度から授業「青谷学」の一環で取り組んでいる。本年度からは年間を通じて、より専門的な考古学分野を学ぶため「弥生文化探究」の科目を設定。全国でも有数の弥生遺跡を学び、地域や文化遺産を大切にすることを養う。

発掘したのは地表から地下2メートルの調査区で、当時入り海に面し青谷地区の交易で栄えていたとされる遺跡中心域の北端。県とつとり弥生の王国推進課の門脇隆志文化財主事は集落があった時代背景や、面をそろえて掘り進める発掘作業の基本を解説した。

生徒はスコップや竹べらで約1時間かけて粘土質の土を丁寧に削り掘り、古墳時代の出土品とみられる白や赤の土器の破片、炭を次々に発掘した。山根華乃さん(18)は「地道な作業で歴史研究が行われていることを実感した。青谷高でしかできない貴重な経験ができた」と話した。

